The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ハワイ音楽における伝統・継承・創造
Author(s)	内崎, 以佐味
Citation	大阪大学, 2003, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/44392
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【2】

氏　　名	内　崎　以佐味（うち　ざき　い　さ　み）
博士の専攻分野の名称	博　士（文　学）
学　位　記　番　号	第　17999　号
学位授与年月日	平成15年3月31日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学　位　論　文　名	**ハワイ音楽における伝統・継承・創造**
論　文　審　査　委　員	（主査） 教　授　山口　　修 （副査） 教　授　根岸　一美　　助教授　永田　　靖

論　文　内　容　の　要　旨

本論文は、ハワイ音楽の歴史と現在を楽器学的かつ文化的に考察した研究である。ハワイ音楽は大きく、西欧世界と接触する以前から現在にいたるまで伝承されている伝統音楽と、いまひとつは、「現代ハワイ音楽」ともいうべきものに大別される。これらを横断するかたちで展開する本論文は、大きな歴史の流れをたどるかたちの3部から成り、そのなかに10の主題による全10章を組み込むことにより、ポリネシア文化のひとつをその動態において記述するモノグラフとなっている。なお、対象とするハワイでのハワイ語と英語の重要性と転記上の問題点を考慮に入れて、論文題目以外は原則として現地で正書法とされているローマ字表記を一貫して採用している。

第1部「Hawai'i 音楽の伝統と変容」は、伝統的な音楽や舞踊からどのように現代的なかたちが出現したのかを探ることと、その研究上の問題点をあつかう。第1章「Hawai'i の伝統楽器とその特性」では、弦、管、打にわたって20種を数える伝統楽器それぞれの材質、つくり、奏法などの点での特徴を記すだけでなく、重奏や舞踏伴奏のかたちで演奏されるときの特徴にも言及する。第2章「hīmeni、hula ku'i の出現経緯と『現代ハワイ音楽』における地位」では、伝統的な音楽世界では、それらの楽器よりは無伴奏あるいは楽器伴奏や舞踊 hula と結びついたかたちでの朗唱風の声楽 mele がむしろ中心的な役割を果たしていたこと、また西欧文化との接触以後には新しい様式の音楽や舞踊として、キリスト教賛美歌の影響をうけた旋律や和声による hīmeni や混合舞踊 hula ku'i が出現したことを指摘する。第3章「Hawai'i の伝統音楽研究の手法に関する諸問題」は、ハワイ音楽研究史上で最も重要な業績を残した Helen H. Roberts が1923～24年におこなった現地調査とその報告書をとりあげ、先駆的な仕事を称えつつも、批判的に解題と論評をくわえている。

第2部「Hawai'i 近代楽器の生成と変容」では、ポルトガルなどから導入された楽器が土着化して変容を遂げ、逆にハワイの外へと影響を及ぼすほどの「ハワイらしさ」を創出するにいたる過程を記述する。第4章「'ukulele の楽器としての定型性」は、楽器の形状や寸法、奏法、音色などの点で時代や地域を超えて持続される確定的特性として定義できる定型性がウクレレの場合これまで、また今後も比較的寛容であることを指摘する。第5章「Spanish guitar の Hawai'i における受容の二態様」では、西洋楽器がハワイ風に変容する事例を、さらにふたつ追加する。いずれも起源は明らかではないにしても、スパニッシュ・ギターに対して、第一に調弦法や奏法を伝統的な楽器観と見合うものに変容させた結果としての slack key guitar、第二に形状や演奏時の構え、そして指をすべらせる特殊な奏法まで創り出した steel guitar が傑出している。とくに後者は、ハワイ音楽史上でも特筆すべき作りかえであったので、第6章「"Hawaiian guitar"（acoustic guitar）－形状の変遷と sound のもたらした impact」で詳細に論じるだけでな

く、第7章「steel guitar の Hawai'i 外における進化－non-Hawaiian music への同化の経緯」においてハワイの外へと影響力を及ぼした過程をたどる。

第3部「Hawai'i 音楽の現代」では、前述の hula ku'i や steel guitar を骨格として形成された現代ハワイ音楽の様式や楽器が示す華やかな変遷をたどり、社会的な意義をも考察する。すなわち、第8章「『現代ハワイ音楽』という genre 形成の経緯－急速な形成の要因」、第9章「"Hawaiian Renaissance" が Hawai'i 音楽にもたらした変容」、そして第10章「Hawai'i 音楽に起因する社会的事象－音楽社会学的視野からの解明」である。

（分量　本文303頁400字詰原稿用紙換算約950枚　日英要旨等31頁）

論文審査の結果の要旨

現代ハワイ音楽の楽器蒐集家としては世界一を誇る著者が、単なる好事家として時間と労力を費やしてきたのではなく、学術的な意図を次第に表面化させてきた結果を本論文に見ることができる。また、演奏を嗜む素養が効を奏して、楽器の微細な、ときには強烈な変容の足跡を分析的に見極めた結果、文献やインタヴュー等からだけでは把握しにくい側面までも事例楽器群から読み取っており、学界への貢献度は高い。随所に挿入された図版や写真類も論を視覚的に補強するものとなっていて、論文が言語表現で勝負すべきであるという当然の要件を満たしたうえで、読者の「映像知」にも訴える方策をも講じるかたちになっている。

本論文の短所を挙げるなら、とくに伝統音楽に関する論述の部分で、入手できるはずの文献や視聴覚資料を徹底的に吟味しているとはいい難いことが第一である。しかし、本論の主目的が現代的文化触変をあつかうところにあり、その部分では膨大な量の資料が駆使されているので、この短所は本論文に続く研究により徐々に補ってゆくことが可能であろう。第二の短所としては、論文の全体的な構成感が必ずしも説得力あるものとはなっておらず、章間の有機的な関係性がやや乏しいことである。しかし、それぞれの章での論旨は明快であり、学界に対する貢献度の高い本研究の価値を損なうものではない。よって、本論文を博士（文学）の学位を授与するのに充分な価値を有するものと認定する。